

当協会におけるピロリ菌除菌療法の現状と医療者の関わりについて  
福島県保健衛生協会 塚原里美

演題名：当協会におけるピロリ菌除菌療法の  
現状と医療者の関わりについて

○ 塚原里美<sup>1)</sup>、高根百合子<sup>1)</sup>、福島京子<sup>1)</sup>、  
5 佐藤寿子<sup>1)</sup>、後藤光弘<sup>1)</sup>、坂本弘明<sup>1)</sup>、小  
原勝敏<sup>2)</sup>

1) 公益財団法人 福島県保健衛生協会 総  
合健診センター

2) 福島県立医大附属病院内視鏡診療部

10

[目的] ヘリコバクター・ピロリ菌（以下：  
ピロリ菌）は胃潰瘍、十二指腸潰瘍、そして  
胃がんの発生に密接な関連性を有しているこ  
とから、治療上、重要な病因として位置づけ  
15 られている。福島県保健衛生協会（以下：当  
協会）では、ピロリ菌検査で陽性と判定され  
た場合に除菌療法を実施している。今回、当  
協会でのこれら現状と医療者の関わりについ  
て検討したので報告する。

20 [対象] 平成22年4月から平成25年10月まで

当協会におけるピロリ菌除菌療法の現状と医療者の関わりについて  
福島県保健衛生協会 塚原里美

の 3 年 7 か 月 間 に 、 6508 名 に 対 し 上 部 消 化 管  
内 視 鏡 検 査 を 実 施 し 、 そ の 中 で ピ ロ リ 菌 検 査  
を 行 っ た 459 名 を 対 象 と し た 。

[ 結 果 ] 対 象 者 の う ち 陽 性 と 判 定 さ れ た 376 名  
25 に 対 し 除 菌 薬 を 服 薬 さ せ た 。 服 薬 後 、 除 菌 判  
定 の た め 再 度 受 診 し た 者 は 266 名 ( 71% ) で あ っ  
た 。 除 菌 率 は 、 一 次 除 菌 が 266 名 中 222 名  
( 83.4 % ) 、 二 次 除 菌 が 44 名 中 37 名 ( 84.0 % ) で  
あ っ た 。 男 女 別 の 一 次 除 菌 率 は 、 男 性 が 156 名  
30 中 133 名 ( 85.2 % ) 、 女 性 が 110 名 中 89 名 ( 80.9 % )  
で あ り 、 二 次 除 菌 で は 男 性 が 23 名 中 20 名  
( 86.9% ) 、 女 性 が 21 名 中 17 名 ( 80.9% ) で あ っ た 。 服 薬  
指 導 に あ た っ て は 、 ま ず 医 師 が 医 学 的 知 識 を  
も と に 受 診 者 へ の 説 明 を 行 い 、 看 護 師 が 各 自  
35 の 生 活 習 慣 な ど を 考 慮 に 入 れ て 、 確 実 に 服 薬  
で き る よ う パ ン フ レ ッ ト な ど を 用 い 、 指 導 し  
た 。

[ 考 察 ] 従 来 の 報 告 に よ る と 一 次 除 菌 率 は 約  
70 % 、 二 次 除 菌 率 は 81 ~ 96 % で あ る と さ れ て  
40 い る の で 、 当 協 会 の 除 菌 率 は 、 良 好 な 成 績 で

当協会におけるピロリ菌除菌療法の現状と医療者の関わりについて  
福島県保健衛生協会 塚原里美

あった。これら好成績をあげ得た要因としては、医師の詳細な説明に加え、看護師による本人への個別指導が功を奏し、確実な服用につながったもの思われた。しかし、除菌薬を  
45 処方したにもかかわらず、除菌判定のための  
再来者が、検査施行総数の71%に止まっていた  
ことは問題であり、今後解決すべき課題として  
残された。

[まとめ] 除菌療法を成功させるには、本人  
50 の自己管理の意識の高さが成績の良し悪しを  
左右する。ゆえに受診者の健康意識を高める  
ためにも、医療者側の丁寧な服薬指導が重要  
であり、分かりやすい説明を心がけながら、  
除菌成功に導けるよう努力していかなければなら  
55 ない。また除菌後の判定のための再来者が増  
えるよう今後も積極的な受診勧奨を進めてい  
きたい。